

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.054 }
2024 10.11

特集 ONE TEAM プロジェクト

学生プロジェクト活動紹介(YUME column) / 第11回デパートゆにっと



地域づくり考房『ゆめ』
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の
全学生を対象に、学生と地
域住民とのふれあいを大切
にして取り組む地域連携活
動の支援を行っています。

ごあいさつ

松本大学はその設立の経緯からして、地域への貢献が
テーマの大学となります。このため、設立当初から様々な
地域貢献活動を行ってきました。これが文部科学省の目
にとまり、新しい理念を持った大学としてとりあげられ、日本全国の大学から視察団が訪
れたものです。この地域貢献活動の中心のひとつとなったのが、地域づくり考房『ゆめ』で
す。学部学科、学年を問わず志を持った学生が、まるでサークル活動のように自ら進んで
地域貢献に取り組む姿は、視察に訪れた他大学の先生方から高く評価を受けています。
地域づくり考房『ゆめ』は常に新しい姿に進化しています。これからも『ゆめ』の発展に
ご期待ください。
(地域づくり考房『ゆめ』運営委員長 上野隆幸)



学校法人松本学園
松本大学

ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域に生きる人々の想いを知ることを目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、今年5月から9月までに行った活動を紹介します。



9月「映画と街の魅力を繋いだ」 「上土シネマフェスティバル」



9

9月21日(土)・22日(日)の両日、OneTeamプロジェクト「上土シネマフェスティバル」が開催されました。フェスティバルでは『ゆめ』の学生の他、増尾ゼミ・白戸ゼミ・畑井ゼミの学生も参加し、映画上映の他、ポスター展、PRムービーの上映や、飲食の提供をはじめ、上土商店街を盛り上げるための様々なイベントが行われました。当日は、上土劇場で「ローマの休日」「男はつらいよ」「スティング」の3本の懐かしい映画が上映されました。それぞれの映画には100名近くの地域の方々が集まり、ゲストによるトークショーも行われ、昭和の映画を十分楽しむことができました。かつての映画の街「上土」で行われたイベントで、多くの人たちが改めて映画の持つ醍醐味と魅力をたっぷり感じてもらうことができた2日間でした。ライフスタイルが変化しても映画館でみる映画の醍醐味は不滅です。参加した学生も映画文化の奥深さを知ること、その魅力を街づくりに活かすことの大切さを感じていました。街と映画の魅力は、世代を超えたコミュニティの魅力として多くの人たちを繋げることができました。「来年もまた開催してね」という地域のたくさんの人たちの声を聞きながら、充実した2日間が終了しました。



学生の感想



上映会の映画は「その時代の映画の中では有名な作品で、若い世代は知らない」という絶妙な作品で、当時の人たちには懐かしく、自分たちの世代にとっては新鮮というだけでなく内容も予測不能な展開が多い映画なので、見たことがなくてもとても楽しめる映画だったと思います。

(観光3年 小林)

5月 地域ビジネスに活かす農業



5

5月18日(土)に松本市四賀地区の田んぼへ増尾・向井両ゼミの学生も交え総勢30名で赴き、恒例のもち米の田植えを実施しました。最初に毎年お世話になっている地元四賀地区の佐々木清夫氏から田植えのコツを教わり、作業を開始。初めて田植えを経験する学生がほとんどで、田んぼの泥に悪戦苦闘しながらもそれを楽しむかのように威勢のいい声を張り上げながら、ひとつひとつ丁寧に作業を行いました。作業を終え田んぼ一面に植えた苗を見た学生たちは、とても満足そうに大きな稲穂として成長する姿を今から楽しみにしている様子でした。

午後は、佐々木清夫氏と株式会社かまくらや社長の藤本孝介氏より、四賀地区の農業や棚田の歴史、今後の農業の在り方などについてのお話を頂戴し知識を深めました。学生たちは、佐々木清夫氏がおっしゃった

『土が人をつくる』という言葉がとても印象的だったようです。なお、稲刈りは9月19日(木)に実施しました。もち米を頼張る日がとても楽しみです。



学生の感想



実際に田んぼに入り苗を植えることで、農業のプロセスを体験し、イメージと実践の違いを肌で感じることができました。日頃食べているお米の背景には歴史があり、農家の方々の努力によって私たちの食を支えてくれていることに、より一層感謝する必要があると感じました。(総経4年 川浦)

6月 平出遺跡と奈良井宿への歴史をたどる旅

街

「街道に朴(ほお)の香 清(すが)し 木曾路かな」「いにしへの 命偲ぶや 風みどり」バスハイク参加の武あき子さんは、今回の感想を素敵な俳句に読んで下さいました。

最初の訪問地、塩尻の平出遺跡博物館で学芸員さんからこの地区の歴史と人々の暮らしを学び、古墳時代から弥生時代の「いにしえびと」の生活、そして松本平の様子を茅葺き屋根の住まいと倉庫などを見て、学生と地域の人々が先祖に思いを馳せることができました。続いてバスは晴天の中、風みどり漂う木曾街道を南下し、朴の香りに惹かれるように奈良井宿に入りました。中山道奈良井宿は難所の鳥居峠を控え多くの旅人で賑わった宿場町で今でも街並みは多くの人で賑わっていました。日本の観



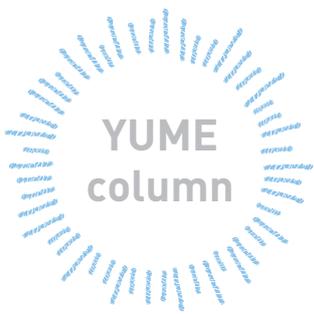
光人気と円安が相まって国際色豊かに感じました。お昼は「徳利屋」さんの古風なたたずまいでお蕎麦と五平餅を頂き、学生と地域の方の心を癒してくれる旅となりました。



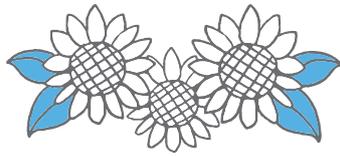
学生の感想



地域の方々と交流しながら散策するのはすごく貴重な体験になりました。地域の方は物知りの方々ばかりで、地域のことをよく話してくださって勉強になりました。今度は予定が合えば友達も誘ってまた参加したいです。(栄養1年 松山)



談笑に花が咲く「珈琲ひまわり」の風景



「珈琲ひまわり」は地域の方々と学生が運営し、誰もが気楽に立ち寄れるコミュニティ喫茶です。店内は8つほどのテーブルがありますが、昼時には満席になることもあります。4月のオープン以来、地域のお年寄りなど常連客はもちろん本学の教職員、時には観光客まで立ち寄るようになりました。学生も誰にいわれるのでもなく授業の合間を縫って、気楽にお手伝いに入ります。なかでも、有志グループ「ゆにまる」の学生は、コーヒーとともに提供できる「チーズケーキ」の開発に動き出しています。ここでは一杯のコーヒーが人と人とのつながりを生みだしています。年齢を超え、立場を超え、損得も超えて、集まってくる地域の方々と学生の談笑の聲があちこちから聞こえます。学生たちは、コミュニティが崩壊したといわれる社会の中で、今その必要性を改めて肌で感じています。地元新村には高齢者の一人住まいも少なくありません。そんな実情の中で「人を元気にするのは人しかない」ということを、参加している多くの学生が感じています。「ありがとうございました、また来てください」、来た時よりも笑顔が増えて帰っていくお年寄りを送り出す学生の笑顔が素敵です。



学生の感想



珈琲ひまわりでは、毎回学生と地域の方々が笑顔で楽しそうに話しています。私も地域の方々と話していく中で、地域の方々は月2回の楽しみだと仰ってくださいます。このような活動ができるのも、地域に密着した松本大学だからこそだと思います。これからも地域の方々の憩いの場として細くとも長く続けばよいと思います。

(観光4年 鈴木)



学生プロジェクト活動紹介 「茶房しといき」



今年度の活動は、学生が趣向を凝らし地域の方の誕生日会や「いただきます!!」プロジェクトとコラボしてパン作りやゼリー作りと考えられた活動をしてきました。4月は多くの方の誕生日を祝い、たまたま参加した健康栄養学科の先生もお祝いしました。全員の生まれた日の信濃毎日新聞をラミネートして渡したり、本日の主役のタスキを作り一言ずつお話を頂いたりとおもしろいひといきが続いています。学生中心の活動として進行からゲーム企画、健康体操を取り入れながら地域の方と世間話ができる楽しい時間が共有出来ます。皆さん参加することで元気になる笑顔が増えていくような気がします。



学生の感想



地域の方に喜んでいただける居場所を作ること、また来たいと思っただけの「ひといき」を作りたいという思いで半年活動してきました。地域の方と学生が作り上げるひといきを目指していきたいと考え、いただきます!!とのコラボや自作のすごろくを企画しました。地域の方の意見に沿った企画も考えていきたいと考えています。色々な方の笑顔を見ることができ、とてもやりがいを感じて活動しています! (観光3年 大原)



学生プロジェクト活動紹介 「すすはなプロジェクト」 すすき川花火大会にまつわるプロジェクト



松本の夏の風物詩、色とりどりの輝きのおりなす造形が夏の夜空を彩るすすき川花火大会。この大会を主催する実行委員会の一員として、運営当事者として携わるのが主なミッションです。また花火大会に関わって地域や諸団体と交流し住民や企業とのつながりを生かし、難題を克服してイベント目的を達成させる体験をするプロジェクトです。昨年同様に大会準備・片付け、FMラジオでの番組やCM制作、うちわ制作配布、現地の散歩、地域の勉強会参加、花火写真コンテストに加え、SNSプロモーション、交通機関への広告、当日の全体進行・高校生の進行支援、協賛企業の拡大活動、富士電機工場祭への参加が、今年度新規の取り組みとなりました。実行委員会事務局の富士電機や松本FMの皆様には何度も訪れていただきワーキングを繰り返し、多くの取り組みが実現できました。実行委員会でのプレゼンで大学生の本気モードを感じていただき、実現した取り組みもありました。プロジェクト参加者一人一人にとって、当日火花のふりそそぐスタッフエリアでともに過ごせたこともあいまって、心に残る素晴らしい思い出となったことと思います。

学生の感想



すすき川花火大会を通して、上高地線乗り革広告の作成や新規協賛企業を募集する活動などの準備を多くのメンバーで進めていくことができて良かったです。当日はこれまでの準備の成果が功を奏し、例年と異なった状況であったにも関わらず、たくさんのお客様に来ていただけました。すすはなメンバーや富士電機さんを始めとする実行委員会の皆さんと共に、今年もとても美しい華を目に焼き付け、良いひと夏の思い出とすることができました。(総経2年 濱)





学生プロジェクト
活動紹介



寺子屋

～大学生と子どもの交流～



2022年の秋から毎月開催している子どもの居場所づくり「寺子屋」が、本年度より学生プロジェクトの一つになりました。改めてチラシ等でメンバー募集を行い、新メンバーも増え、5月から開催しました。子どもたちと関わりたいという学生が集まっており、学生間の雰囲気も良く、子どもたちもすぐに懐いてくれた様子でした。学生も、孤立する子どもがいないように目を配り交流しています。毎月その時期に合わせた企画を計画し、5月には大学の畑で野菜の苗植え、7月には七夕の願いごとやスイカ割り、9月には収穫した野菜を使ってカレー作りなどを行いました。今後も寺子屋の活動が、学生にとっても子どもたちにとっても、一つの居場所となれば嬉しいです。

学生の感想



どうすれば小学生達に楽しんでもらえるか考えて、毎月計画しています。また、その月に関連している行事を行うようにしています。小学生と大学生と一緒にしゃべったり笑っていて毎月楽しいです。小学生達と一緒に活動することで元気を貰っています！

(総経2年 西澤)



～栄村の魅力を満喫～ ええじゃん栄村



「ええじゃん栄村」プロジェクトに所属する学生は、例年通り5月に「春の普請」、6月に「田植え祭り」に参加し地元住民を中心に交流しました。「春の普請」は冬の間、河川に溜まった草木やゴミ等の清掃を行い、田植えを実施する準備を行いました。この冬は例年より雪が少なかったようですが、用水路等には大量のゴミ等が溜まっており学生も汗をぬぐいながら作業をしました。

「田植え祭り」は、地元及び東京都内の小学生を交えて田植えを行いました。全員が裸足になって泥だらけになりながら、ひとつひとつの苗を手で丁寧に植えました。途中、小学生と泥を掛け合ったりするなど童心に返ったかのように存分に楽しみました。田植えをした後は昼食を交えながら小学生と交流を図り充実した1日となりました。

今後も、「秋の普請」や「どうろく神」等、年中通して活動が続きます。



学生の感想



今年の普請は例年よりも参加者が少なく少数での活動でしたが、地域の方々と協力することで田植えに向けた水路掃除を効果的に行うことが出来ました。田植えでは東京からのボランティアの方々が参加して下さい、普段とは違った、栄村以外の方々と交流を図ることができ様々な知見を得ることが出来ました。(観光3年 等々力)

楽しく手話を学び知識を深める ~Sign~

Signプロジェクトの活動は前期期間中、「手話学習会」を定期的実施し知識を深めました。昨年に引き続き、短期大学部非常勤講師の武居みさ氏を講師に招き実施しました。基本的な自己紹介や簡単な会話をしながら、手話を通して自己表現を楽しみました。また、歌でしりとりを行うなど、ゲームやレクリエーション的な要素も加味しながら楽しさプラス笑いあいの場面も多く見受けられました。そのような場面を通して、手話の動作ひとつひとつにも大きな意味があるなど、手話の極意を存分に満喫しました。参加した学生も、「障がい者に常に寄り添う気持ちを忘れず、もっともっと手話の知識を深めたい」「いつかは自分が手話を教える立場になってみたい」などの感想を寄せてくれました。



学生の感想



手話学習会を月に1度開催しました。多くのメンバーが参加して活動も賑やかになりました！その言葉を示す手話の由来を知ることができてより一層理解が深まりましたし、手話をもっと知りたいと思いました。さらに障がい者のスポーツ交流会のお手伝いや就労カフェでの活動を通じて多面的に障害について学ぶことができています！（観光3年 土橋）

松本市四賀地区防災フェスティバル



四賀地区でサバイバル防災講座が行われ、大学生5人と四賀地区の小学生が共に学びました。お二人のブッシュクラフトインストラクターよりシェルターづくりの指導を受け、グループに分かれて実際に体験しました。災害時に役立つ紐の結び方、雨を防ぐシェルターの作り方等真剣に取り組み、大学生と一緒にやる事で小学生もテンションが上がり、楽しく学ぶことができました。終了後は、災害避難時の非常食とレトルトカレーをごちそうになり、世代を超えた助け合いがいかに大切かを学んだ1日となりました。



学生の感想



四賀地区の今回のイベントで初めて知る防災の知識も多々あり、子ども達と一緒に学ぶことができました。その中で子ども達が、ロープ同士を繋げることのできる「本結び」を活用して、ロープを何本か繋げて、大きな縄跳びにしていました。学んだことに対する子どもならではの実践がとても印象に残っています。

お昼を食べ終わった後、子供達と鬼ごっこをして遊びました。私は鬼役だったのですが、お昼前まで共同作業や説明などを受け疲れてるはずなのに、まるで疲れが全部吹っ飛んだかのように私から逃げていました。翌朝とても足が痛かったのを覚えています。防災のことにに関して、子ども達との楽しい思い出と一緒に覚えることができ、とてもいい経験になったと思っています。（観光3年 亀野）

スマホ講座



昨年の夏より地域の高齢者向けに行っているスマホ講座は、学生が講師となり4月から毎月1～2回、午前中に公民館にて実施しました。「いちばんやさしいスマホ講座」という講座名のもと、学生が参加者に寄り添い、一人ひとりのペースに合わせて進めています。毎回様々なテーマを設け、スマホのカメラで身近なものを撮影したり、YouTubeで観たい動画を検索して視聴したり、地図アプリの使い方を学んだりしています。座学では、スマホでどんなことが便利にできるか、またスマホを使う上での注意点についても触れています。講師を務める学生は、「スマホを上達するコツは、とにかく毎日使うこと」と話し、スマホを触って、慣れ親しむことが大切だと伝えています。参加者からは、日頃スマホを使っていてわからない点も質問を受けます。些細な疑問も聞きやすい場でありたいと思うと同時に、スマホ講座を通して生まれるコミュニケーションも大切にできれば嬉しいです。



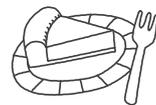
学生の感想



昨年度より始めたスマホ講座ですが、だんだんと定着して参加される方も多くなってきました。また、新規で来られる方もおり、地域内でのニーズの高さを感じました。来られる方々のペースに合わせて講義内容を変更することで、地域のスマホに関する要望に対応することができたと思います。今後はまだ来ていない方々により気軽に来ていただけるよう、活動を展開してまいります。（観光3年 鍵田）



地域と大学生が協力した 『高校生合同販売 第11回デパートゆにっと』



高校生合同販売「デパートゆにっと」で「ゆにまる」本領発揮 //

「ゆにまる」は商業を学ぶ高校生たちが、地域ビジネスの実験・実証をする学びの場「デパートサミット」をサポートする大学生の支援団体として誕生しています。夏の恒例イベント「第11回高校生合同販売デパートゆにっと」が8月24～25日に、井上デパート本店で開催されました。駅前の井上デパート本店での開催が最後の年、県内各地の高校6校がそれぞれの地域資源を活用した商品を販売し、本学の「ゆにまる」も今年度は、高校生の参考となるように自らストーリーを描き商品開発を実践しサポートをしました。地域復興のビーツを

活用したクインテッド(五重奏(層))のダブル(レア・ベイクド)チーズケーキ、真っ赤なビーツを生かしたピンクのチーズケーキに仕上がりました。当日は、地域の方々にもご参加いただき、コミュニティカフェ「珈琲ひまわり」を営業し、コーヒーとともに松本名店カレーや新商品チーズケーキを販売し、予想以上の売上でした。高校生や地域の方々、大学生が協働でつくりあげた地域イベントとして多くのお客様に訪れていただき、井上デパート駅前本店での最後の開催を飾ることができました。



学生の感想



私は、今回の販売活動を通して、地域づくりにおける人と人の繋がりの中で生まれる力の大きさを強く実感しました。私たち「ゆにまる」は、私たちなりに朝日村の方々の思いに共感して今回の商品開発を進めてきました。また、活動にご協力してくださった方々は、本活動が学生にとって豊かな学びになるように助言や支援をしてくださいました。このように、活動に関わる各主体が、各々の考えに共感し貢献し合うことで生まれた力のおかげで、今回の販売会は成功を収めることができたと考えています。(観光2年 小林)



編集後記

学生の地域づくり活動って何? 実践例からその効果を3つほど感じています。
①形式・技巧的なコミュニケーションのみでなく社会の一員としての自覚的なコミュニケーション力がつき、主体的な立ち位置で考えられるようになる。②思考・判断・表現の試行を繰り返し、知識・技能として過去に学んだことや活動から新たに学ぶことを点とすれば、点を自ら線でつなげて構成し新たな思考や知恵を創出する実践の場となっている。③情報化、グローバル化、高齢化・人口減少、産業構造の変化などに影響される地域社会の今後の望ましい在り方を若者が創造(想像)する契機となる。ひとつの地域を体験していくことが地域の塊として見ることでできるグローバル社会にも応用でき、地域活性化や地域貢献にもつながるのでしょ。これらのことは単にキャンパスから地域に出かけるのみではなく、地域の方々や仲良くなり、そこから「お困りごと」等に関するコミュニケーションができるようになり、他人事を自分事として考えられるレベルまでに物語や文脈が出来上がってくるが必要であろうと思います。地域全体をまるごとキャンパスとして捉え、地域を構成する諸要素を教育資源として思考することかなと思います。(さんざわ)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階
開館日時: 月～金 10:00～18:00
TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216
E-mail: community@t.matsu.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>



CHIKIGUHUAIKOUSOUYUME